

インド・青少年アドベンチャーキャンプ情報提供

RIJYEC アドヴァイザー

近藤 眞道

私の大親友であるインドのヒマラヤ・ガンジス流域地域を管轄している小生の 20 年来の大親友で第 3250 地区の PDG であり、青少年交換委員長スリンダーさんより、青少年を対象として 3 月 28 日～4 月 11 日の 2 週間のインドキャンプ旅行プログラムの募集案内が届きました。

旅行の内容は添付パンフレットをご覧ください。観光では、なかなか行くことのできないインドのすばらしい所をめぐる 2 週間の旅です。もちろん全行程ロータリアンが同行します。

アドベンチャーキャンプ参加者の感想をご参考にお送りいたします。

ご高覧の程、よろしく願い申し上げます。

申込締め切りは 3 月 15 日です。

※(インド特別管轄区域への特別 VISA が必要になりますので余裕を持ってお申込ください)

詳細は 下記の通り(日本から一人でも参加できます。)

興味のある方は RIJYEC 事務局までご連絡ください。

— 記 —

日時：2018 年 3 月 28 日（水）～4 月 11 日（水）

費用：82,000 ルピー（INR）日本円で約 14 万 506 円（2018 年 2 月 05 日 13:00 現在）

【金額に含まれるもの】

移動の電車代（寝台車）、現地での移動代、観光、朝食、昼食、夕食、各部屋にシャワーのついている良いホテルとリゾート宿泊代金

【含まれないもの】

航空運賃、飲み物代、電話代、洗濯代、このツアーに含まれていない美術館等のモニュメント等の入場料、その他のツアー代金

資格：・18 歳（大学生）から 25 歳まで

・英語が話せるのが望ましい

・地区ガバナーとスポンサークラブ会長の承認が必要。

連絡先：RIJYEC 事務局 中村瑛美

〒105 - 0011 東京都港区芝公園 2 - 6 - 15 黒龍芝公園ビル 4 階

TEL：03-6431-8106 FAX：03-6431-8107

E-Mail:rijyec@sunny.ocn.ne.jp

以上

2016-17 年度参加者の感想

インドアドベンチャートリップに参加して

藤村 素直

まず、はじめに受け入れて頂いた 3250 地区の皆さんと旅行の手配をして頂いたスリンダーさん、また自分を推薦して頂いた観音寺 Rotary クラブの皆さん、相談を受けていただいた RIJYEC 事務所の中村瑛美さんに感謝を申し上げます。

私がアドベンチャートリップのことを聞いたのは就職活動を本格的に始めた去年の 2 月頃でした。高校生の時に 1 年間留学を経験していた私は「海外で仕事をしたい」という曖昧な考えのもと、自分の専門を考慮しながら就職活動の準備を始めました。しかし実際に海外で働くと言っても世界は広く、また知らないことの方が多かったので何を目指して、何をすればいいのかがいまいちピンとこず、焦っていました。そんな時にインドに約 2 週間、現地を回る旅行があると聞いた私はほぼ即決で参加したい旨を伝え、無事インドに行くことが決定しました。

それまでも中国、韓国、フィンランドなど様々な国を訪れていた私はインドについて簡単に調べて今まで行ったことのある国とはどうやら全く違うらしいという情報を得ました。インドについて調べてまず目にするのが「どことも違う圧倒的個性と世界観」という表現です。実際、インドという国は地理的にも他国とは離れていて、歴史的にも個性的な文化を持つことで有名です。これは私が諸外国に行った時に思うことですが「日本と比べて～だ」、あるいは「日本にはある～がない」とどうしても自国である日本と比較してしまいます。しかしインドの文化や習慣はもはや日本のそれらとは比較ができないほど遠くかけ離れており、いい意味でも悪い意味でも比較できるようなものではありません。

インドに着いて面白かったことはたくさんありますが特に面白かったことは人々の労働に対する考え方です。これにはカースト制度の名残などもあるため一概には言えなないかもしれませんが、効率化という概念が全くないように感じられます。例えば飲食店に行く一つのテーブルに 3 人ほどのウェイターが付き、それぞれがオーダーを取る係、配膳する係、食器をさげる係と一人いればできることを複数人で分担することが多々ありました。街中を歩いてみてもこの人は一体どんな仕事をしているのだろうかという疑問に思うことが多々ありました。このことについて現地の方に聞いてみると、「人口の増えつづけるインドで働き先を増やさなければ生活できない人が増えてしまうので仕方ない。」という日本では考えられないような回答が返ってきました。これはインドにおける宗教観も関係しているのかもしれない。

そのほかにも大雑把なインド人の国民性に戸惑うことが多々ありました。コンビニ等で並んでいると横から割り込んできたり注文をしようと待っていると横から先に注文をされたりと日本では考えられないようなことばかりです。タクシーに乗るとこれらの驚きはさらに顕著になります。事故すれすれの運転とクラクションの嵐ではじめはとても怖かったです。

アドベンチャートリップではインド中の様々な地方を回るため、所が変わると文化も全く変わってしまうのも面白かったです。比較的発展していたコルカタから始まり、南部のトラが生息する地域で野生動物を観察して、北部の特別保護区のシッキムなど様々な経験をすることができました。

またアドベンチャートリップには諸外国からの参加者がおり、夜ホテルに着くと様々なことを話し合いました。ヨーロッパからの参加者がほとんどでそれぞれが自国のことを話し、それぞれが違う文化を持つことが印象的でした。中でもイギリス人とスペイン人とは共通の話題から仲良くなり寝るのを惜しんでたくさんのかたを話しました。

インドを訪れたことで私は自分の持っている価値観が大きく変わりました。そしてまだまだ知らないことがたくさんあること、情報として知っていることと実際に体験するのは全く違うことを再認識しました。今回の経験を生かして成長できたらと思います。

2007-2008 年度参加者の感想

インドで感じる Universe

中村 瑛美

感想文の題名で使っている Universe ですが、その名の通りインドには、州によって、民族によって、宗教によって異なる文化、芸術、社会、習慣、慣習、言語、食べ物等々が存在し、それらが1つの国に収まっているというある意味 Universe、宇宙や世界、全人類、万物といった深みを感じることができる国です。

このキャンプの参加者はブラジル、メキシコ、ルーマニア、ハンガリー、ドイツ、チェコ、アラスカ、日本、イギリスなど全世界から青少年が集まり、2週間共に行動し、様々な経験をしていくプログラムになっております。

アドベンチャーキャンプのプログラムの内容はインドの大自然の中で異文化に触れ、様々な経験を通して多角的な視野を養える内容です。

Bangalore(バンガロール)でマングローブの森をクルージング、森ではたくさんの生物に出会うことができますが、運が良ければベンガルトラと出会えるかもしれません。早朝はヨガで心と体のバランスを整えます。

プリーというビーチではホーリーという色を楽しむお祭りを現地の人々と祝います。

世界でも有名な紅茶の産地ダージリンで世界一の紅茶の生産工程を見学し、そのおいしさの秘密を知りました。また、現地では村の人々の暮らしや宗教(仏教、チベット仏教)、文化、食文化などにも触れることができ、多角的な視野で考え、感じることができました。世界でも標高の高い湖の一つであるツォンゴ湖にいき、ヒマラヤ山脈を目の前に自然の偉大さ改めて感じました。(ヒマラヤ山脈のすそ野にあるツォンゴ湖の標高は 3753m です。)

その他、様々な所へ訪れ、世界中から来た仲間たちとたくさん意見交換をし、それぞれが持つ価値観や思想などを共有することで個々の重要性と多様性の大切さに気が付くことができました。

2週間の旅でしたが、現在でもキャンプ参加者とは連絡を取り合い、お互いの国に遊びに行ったりもしています。キャンプに参加してから10年が経ち、お互いの状況や環境は変わっていますが、あの頃の話で盛り上がり懐かしんでいます。

スリンダー委員長には2007年から現在もお世話になっており、私のインドの父です。毎年青少年交換で委員長を務め、こちらのキャンププログラムを始めて30年以上が経つそうで(パンフレット2ページ目に載っている写真は若かりし頃のスリンダー。)プログラム参加者からはビッグパパと呼ばれています。

インドとの出会い、そして仲間との出会いはこの旅を通して私の素晴らしい思い出と経験になりました。